

エー ジー ファイブ AG5 だより

教員の実践的指導力向上のための支援

—日本人学校等学校採用教員内定者研修と『初任者研修ハンドブック』—

AG5運営指導委員・海外子女教育振興財団 教育相談室長 植野美穂
東京学芸大学教職大学院 教授 赤羽寿夫



植野美穂



赤羽寿夫

日本人学校・補習授業校(以後、日本人学校等)の教員には、文部科学省からの派遣のほか、学校が独自に採用する教員がいます。この学校採用教員には教職経験者だけでなく、新卒者や転職して初めて教職に就く人などいますが、初任者であっても教師としての意識をもって、すぐに教壇に立ち、学校の運営に取り組んでいくことが求められます。今回は、AG5が2017年度から取り組んできた「教員の実践的指導力向上のための支援」について紹介します。

学校採用教員の研修プログラムの開発

近年、文部科学省による日本人学校等への教師派遣数は微増していますが、アジア地区の大規模校では、全教員に占める学校採用教員の割合が五割と高くなっているところもあります。学校採用教員の多くは新卒者もしくは教職以外からの転職者で、教師としての資質および指導力の向上が喫緊の課題となっている場合も見受けられます。

AG5では、学校採用教員の割合が半数を占める上海日本人学校の先生方にアンケート調査を行い、どのような研修のニーズがあるかを把握しました。この結果を受けて、二〇一八年度に上海日本人学校に学校採用教員として採用されることになった先生方に二日間にわたり東京で赴任前の事前研修を実施しました。

また日本人学校等への赴任が決定した段階で、海外で教師として働くことについてイメージしやすくするために、「教師としての心構え」「海外での教師としての基礎」「学級経営」「教科指導」「教科外活動」「危機管理」「保護者対応」などの内容をまとめた『日本人学校等教員のための初任者研修ハンドブック』を作成し



初任者研修ハンドブックの表紙

ました。そして一九年度学校採用教員内定者研修の参加者に配付し、さらに全日本人学校・補習授業校に送付しました。このハンドブックは、左記URLからダウンロードすることができます。

<https://ag-5.jp/cms/ag5/common/pdf/theme3/handbook2019.pdf>

一九年度の学校採用教員内定者に対する研修プログラムの実際

今年度の学校採用教員内定者研修は、二月十六日に国立オリンピック記念青少年総合センター、十七日に東京学芸大学附属大泉小学校で行われました。内定者は一二八人で、その内、一日目の研修には一一一名、二日目には一〇二名が参加しました。

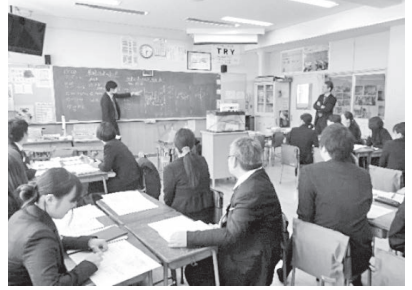
初日の午前中は、日本人学校等や海外子女教育振興財団の概要、渡航手続きに関する説明のほか、文部科学省総合教育政策局教育改革・国際課海外子女教育専門官(当時)の小林美陽氏が「在外教育施設の概要お

よびグローバル人材育成に関する在外教育施設の特徴ある取組みについて」、またバンコク日本人学校校長の室賀薫氏が「海外で教壇に立つ学校採用教員の皆さんに期待！」と題した講話を行いました。

午後からはAG5メンバー等による「学校採用教員のための教員研修」が開始されました。研修プログラムは、一日目は「I 教師としての基礎的素養」「II 学級経営・生活指導・危機管理」「III 授業構成・運営の仕方と授業技術の基礎」(各八十分)、二日目は「IV 教科等指導の基本的な授業の進め方」(六十分)、「V ワークショップ」(八十分+一五〇分)からなり、ワークショップでは受講者は国語、算数・数学、社会、理科、外国語(英語)、音楽、幼稚園、養護の中から一つ選択し、グループに分かれて活動しました。



一日目の講義風景



算数・数学のワークショップ

まず「Ⅰ教師としての基礎的素養」では、東京学芸大学附属大泉小学校副校長の細井宏一氏より、教師としての心構えや服務事項、学校の組織・運営、教育現場での一日・一年の流れ等について、初任者にもわかりやすい説明が行われました。

次に「Ⅱ学級経営・生活指導・危機管理」では、東京学芸大学教職大学院特命教授の今井文男氏より学級作りのポイントおよび児童生徒や保護者との関わり方等について具体例を交えた説明があったほか、参加者同士のグループワークやグループディスカッションも設けられました。続いて東京都立国際高等学校指導教諭の高松美紀氏による「Ⅲ授業構成・運営の仕方と授業技術の基礎」では、「単元、一時間の授業をどう構成するか」「授業の中でどのよう

に生徒と学習を進めていくか」「どのように効果的に学習目標を達成するのか」についてグループディスカッションが活発に行われました。その後、グループ内での話し合いの結果を全体で共有することで、与えられたテーマについて参加者が個々に再考することができました。

二日目の「Ⅳ教科等指導の基本的な授業の進め方」では、細井氏が学習指導要領の改訂の視点および学習指導要領を踏まえた教科学習の基本的な授業の進め方、授業力向上のための授業研究・研修について全体講義を行った後、各教科等のグループに分かれてのワークショップが実施されました。

ワークショップではグループワークや模擬授業を通して、参加者同士が意見を交換し、赴任後に生かせる授業作りや指導方法の基本についての理解を深めることができました。

●理科のワークショップ

理科のワークショップを担当した講師の赤羽寿夫氏はその様子を次のように述べています。

理科教師として派遣される内定者は九名だった。当初、学校採用教員ということで新卒かまだあまり経験のない先生方が多いのではと思っ

ていたが、集まった内定者は年齢も教師としての経験年数も様々だった。

最初、自己紹介とともに「この研修に期待すること」について発言してもらったところ、「どんな授業をすればより良くなるのか、具体的なことを知りたい」、「海外で理科の授業を行う上で注意すべきことは」といったもの、さらには「高校での経験が長く、小・中学校での留意点について知りたい」といった課題を抱えている教員等、出発までにやるべきことが満載という感じだった。

そこで、午前中はまず小・中学生が理科の授業に期待することを取り上げ、実験観察といった体験学習の必要性を示した。中でも生物教材などは海外では日本の環境とはまるで違うため、代替えになる教材を現地で探すことの大切さを話し、映像教材など出発前に準備し持参することを薦めた。

九名の中には学校は違っても同じ地域に派遣される内定者もいて、すぐに仲間意識が芽生え、午前中の講義からリフレクションを行う頃には、情報交換ができる状況になっていた。

午後は三つのグループを作り、模擬授業の計画と実践を行うことにしていたが、九名という参加人数はこのようなワークショップを行うため

の環境作りに有効に働いた。あまり指導案作りにこだわらず、教材を絵にかいても良いということで、協力して二十分程度の授業を一時間で作成してもらった。午前中の雰囲気から和気藹々と作業は進み、各グループが工夫を凝らしながら、無事に二十分発表会を終わらせることができた。この経験を通して、授業を作る難しさという楽しさを感じてもらえたのではないかと願っている。

●内定者研修のアンケートより

二日間の研修を終えて、下記の研修の目的を達成できたと思う人の割合は、①は八四％、②は八一％と高い評価が得られました。

- ①日本人学校等の教師として求められる基本的な心構え、具体的な指導法等について学ぶ。
- ②研修を通じて、同期の教員同士の間で連帯感を高める。

なお、研修の参加者からは次のような感想がありました。

・教師、社会人としての心構えをしっかり確認することができ、初めて教壇に立つ自分にとって、具体的な学級経営の行い方や組織の関係作りについての講話が聞けて、とても参考になりました。

・私は新卒なので、学校の先生がど



保健室での養護のワークショップ

- ・ennaことをするのかという基礎を教えていただけで良かったです。
- ・先生の実体験を踏まえて、日本人学校の子どもの視点を考えることができた。
- ・海外の地で、教師としての責任感を持つことの重要さに気づくことができた。
- ・児童・保護者の立場に立った上でのコミュニケーションの大切さを痛感しました。
- ・危機管理について学ぶ機会がなかなかないのでよかったです。
- ・すでに教員をしていますが大変勉強になりました。初任者の頃、本日のような基本的なことを学びたかったです。
- ・自分の指導案だけにこだわらず、子どもの問いを取り入れる授業を行いたい。

・ 自身の授業の組み立てが、発問しても正しい答えを求めてしまっていることを考えさせられました。授業の流れや教材の準備など見直してみます。

・ 授業作り、展開について沢山学ばせていただきました。授業をしていると、どうしても講義形式になってしまい、子どもの主体的な授業がなかなかできずじまいでしたが、教師自身が学ぶことを楽しみ、一つずつ子どもと学び丁寧な指導を心がけることがとても大切だと思えました。

・ 教育に対して感じる違和感や疑問をきれいに明文化し解きほぐしてくださいような時間でした。もっとお聞きしたかったです。

・ 探究型の授業を体験して、その意義、おもしろさを感じることができました。評価のあり方として、ルーブリックを提示することがとても良い方法だと思ったので、今後の参考にしたい。

・ 保健室についての具体的な内容や資料を沢山見せていただいて、とても勉強になりました。先生の実践例も教えていただき、自分でもやってみたいと思うことが沢山ありました。もっと時間が欲しかったです。

・ 具体的な指導方法や教具、楽器のメンテナンスの仕方を教えていただけだったので、これから実践したいと思います。

・ 幼稚園指導要領などもう一度振り返ることができて良かった。実際の保育の現場の写真を見ながら、一人一人の子どもの気持ちを考えていくことの大切さを知った。

・ 短期間でしたが、同僚となる人や他校の先生と出会い、期待と不安が共有でき、これからすべきことが明確になった。

二日目のワークショップは、東京学芸大学附属大泉小学校の教室を借りて、理科と音楽は特別教室、養護は保健室、それ以外の教科等は一般教室でワークショップを行いました。そのため、教室の掲示物を教材として取り上げたり、実際に使用されている教材・教具を見たりすることができました。

どの教室でも積極的にワークショップに取り組み参加者の姿が見られ、講師の先生方からも「参加者はみんな熱心でやる気があり、楽しく授業ができた」という感想が寄せられました。八つの教科等の中から、参加できるワークショップは一つのみだったため、参加者からは「複数教科のワークショップに参加したかった」という意見が多数ありました。

二日間の研修を終え、参加者は、教材研究の重要性を再認識し、渡航前に、赴任国の歴史的背景の確認、学習指導要領の読み直し、教材集め、教材のデータ化等に取り組み必要性に気づくことができました。

研修に参加された皆さんが赴任先の日本人学校等で良いスタートが切れ、意欲をもって教育活動に取り組みられることを願っています。

〈ワークショップの講師名と所属先〉

(敬称略)

- 国語 高松美紀(東京都立国際高等学校指導教諭)、算数・数学 細井宏一(東京学芸大学附属大泉小学校副校長)、社会 平田博嗣(清泉女子大学文学部司書・教職課程特任教授)、理科 赤羽寿夫(東京学芸大学教職大学院教授)、外国語(英語) 小松万姫(東京学芸大学附属国際中等教育学校教諭)、音楽 角町美穂(東京学芸大学附属大泉小学校教諭)、幼稚園 山田有希子(東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎副園長)、養護 倉澤順子(東京学芸大学附属大泉小学校養護教諭)

* 次年度の学校採用教員の内定者研修は、二〇二〇年二月十五日・十六日に東京学芸大学附属大泉小学校で実施する予定。